

Giri Giri Boys K7 Expedition 遠征報告（短信）

メンバー 横山勝岳 35

増本亮 35

長門敬明 35

コック兼ガイド イサ・フセイン

リエゾン アルシャット・ムハンマド

期間 2014年7月4日～8月15日

山域 パキスタン チョラクサ谷 K7山域

キャラバン日数 2日間（フーシェ 3200m～サイチョー3600m～K7BC4200m）

目標 K7 WEST（6631m）へ、南東稜よりの新ルート登攀～登頂。

結果 K7 WEST の山頂は到達しなかったが、手前のバダルピーク（6100mぐらい、未踏）までは新ルートからのクライミングを果たせた。

ルート名 SOUTHEAST RIDGE（南東稜）

グレード 5.11d C1 M5 60° 58p

日数 4泊5日（7月30日～8月4日）

下降 20p バダルピークと K7WEST の稜線上の西面より、岩と氷を使って下降。

順化 SOLU PEAK 約 5900m 3泊4日（BC4200m～①4800m～②5900m～③4800m～BC）外的危険が少なく、短期間で済んでしまう順応に適した山だった。

BC 近辺情報 砂地の BC 地で、快適。ボルダーが無数にあり、クライミング天国。5000m 級のマルチも多数あり、

登攀報告（短信）

- ① 8p の FIX 作業。6本のロープをつなげて、取付まで下降。BC で数日のレスト後にアタック。
- ② アタック1日目、BC（4200m）出発 am4:00～取付 5:00（4300m）～ユマール～FIX 最高点から（4本のロープをホールバックに詰めて、取付方向へ捨てる）、クライミングスタート。リッジ上の弱点をついて登り、コンテを交えて夕暮れまじかに快適なテラスを発見。整地後 19:00 に幕営。1回目のビヴァーグ地（5300m）
- ③ 2日目、リッジを右へ左へ、時には懸垂で降りたり、複雑な尾根をなんとか越えていった。途中、積木のような触っただけで崩れる個所を、慎重に越え。夜のとぼりが下りる頃に、テントサイトを発見（21:00）。今日も快適なテラスで就寝。2回目のビヴァーグ地（5600m）
- ④ 3日目、朝から複雑なリッジを紐解いていくが、進路を絶たれたように行きづまった。リッジ上の正面に傾斜の強い岩塔がそびえ立ち、クラックが途切れていた。他には登れそうな個所もなくはないが、時間を浪費しそうだった。許される時間と、食料、体力、

天気などを考え、正面突破にかけた。すべてのギアと、祈るような思いで取付いたら、岩が導くように、シンクラックが続いていた。エイドアップしながら核心をこえた。その後はミックス帯で、アックス、クラムポンに履きかえ、雪の斜面で終了。3日目のビヴァーグ地 5900m

- ⑤ 曇りがちだが、先を急ぐ。雪がぱらつき、いつの間にか吹雪いてきた。数回の登下降のちにバダルピーク（約 6100m）の山頂に到達。冷え込みもあり、すぐにテントサイトを探して先を急ぐ。バダルピークと K7WEST への稜線上で幕営。計画上だと 4 泊 5 日で山頂を踏んで、明日には下降に移っているところだったが、見積もりの甘さと、この先の困難さを天秤にかけ、ここまでとした。
- ⑥ K7 の西面からの下降は、セラックを避けての雪と氷をつなげた下降となった。パキスタンの夏の気温は高く、今年も晴天率がよく、結氷の具合を気にしていたが合計 20 回のアバラコフ懸垂と岩角を巧みに利用して下りることが出来た。着地点から BC までは 2 時間の徒歩でそれほどの危険もなく、アプローチの条件も整った山域だった。

山頂には立てなかったが、長大なリッジのクライミングでの困難性と、未知な領域を解明する楽しみ、先の読めない複雑さに揉まれた 4 泊 5 日だった。

